



4月も終わりの週を迎えます。進級・入園してまだ2週間弱ですが、どのクラスでも少しずつ生活の仕方を覚えたり、楽しい遊びを見つけたりして、楽しそうな声が聞こえてきます。何よりも「おはようございます！」と元気いっぱい挨拶をして登園したり、「楽しかった！また明日ね」と手を振って帰っていく姿が見られているのがとても嬉しいです。時には、朝さみしくなって行くのを嫌がったり、幼稚園で思うようにいかなくてシュンとした表情の日があったりするかもしれません。そうした姿や感情も成長の一步、その子の丸ごとの姿と受け止め、寄り添っていきたいと思います。自分で気持ちを切り替えられる日がきっとくるはずですから。

初めてのぐんぐんタイム

全てが「はじめて」の年少児

毎日「おはようございます」とクラスに入っていき子ども達。先生方に迎えられ、自分の荷物片づけをしたり、シール貼りをしたりすることは少しずつ慣れてきたようです。おやつ時にコップを出したり、「いただきます」をしてから食べることも身に付きつつあるようです。一方「はじめて」のことも日々出てきます。「はじめて」の大きな画用紙でのお絵かき。先生に名前を呼ばれたら前を出てきて、好きな色の画用紙を選び、画板の上に画用紙をのせて自分の席に帰ります。この画用紙や画板が結構大きいので、年少児にとっては大仕事。でも自分で準備して、のびのびと好きな絵を描いて大満足の表情でした。その他、「はじめて」の身体測定、「はじめて」の誕生会・・・これからたくさん出会う「はじめて」に、年少児はどのように関わっていくのかとても楽しみです。



広い園庭でたくさんの発見をする年中児

生き物大好きな年中児は、園庭でダンゴムシやカエルなどを見つけては「飼育ケース」に入れて見えています。「ダンゴムシはね、ここの土のところにたくさんいるよ」「きてー！大きなカエル見つけた」と、いろいろな発見に目を輝かせています。2、3日前、玄関のプランターのピオラに『ツマグロヒョウモン』の幼虫を見つけました。子ども達の遊びの範囲ではないので、私が「ねえ、何か不思議な虫がいるんだけど・・・」と、何人かの年中児に声をかけるとさっそくツマグロヒョウモンの幼虫を見て、「わっ！なにこれ」「気持ち悪い・・・」「幼虫だよ、チョウチョになるかも」と、さまざまつぶやきをしました。「なんていう幼虫だろうねえ」と言うと、「そうだ、図鑑で調べてみる」と幼虫をもってき組の保育室の図鑑を広げました。そして、同じ写真を見つけ「これと一緒にだ！」「同じだよ！」と大興奮。字が読めないで「先生なんて書いてある？」と聞き、「ツマグロヒョウモンの幼虫」ということがわかりました。素敵だったのは、実際のツマグロヒョウモンの幼虫を、図鑑の写真の上ののせて「本当に同じだよ」と確かめている姿でした。年中児ならではの発見と発見でした。まだまだいろいろなものを見つける気満々の年中児。たくさんの発見をして、いろいろなことを体と心で感じてほしいと思います。



ツマグロヒョウモンの幼虫いるかな？

いろいろなことに意欲的に取り組む年長児

前号で年長児が自分達で当番を決めていることをお伝えしました。そして、実際に当番の仕事が始まりました。年長児は8人という人数なので、『日直』『掃除当番』『ぐんぐんタイム当番』が毎日の仕事のように。中でも『日直』は毎日のお便りを職員室へ取りに来たり、ウサギ小屋の掃除や世話をしたり、給食時に机をふいたり、大忙しです。お便りを渡す時に「大変だね、たくさん仕事があって」と声をかけると、「大丈夫、大丈夫」という答え。顔を見ると「私たち、こんなにできるようになったよ」と自信をもったような表情でした。自分達で当番の仕事を決め、「カッコいいあお組さんになりたい」という願いをもっているいろいろなことに取り組んでいる年長児が、もうすでに頼もしく見えてきました。これからたくさんの経験をして、うんと「カッコいいあお組さん」になっていくのを見るのが本当にワクワクします。



ウサギ小屋のお掃除をしよう

絵本の好きな平田幼稚園の子ども達

子ども達は絵本が大好きです。好きな時間に保育室においてある絵本を広げて見たり、友達と一緒に見ては笑いあったり、お帰りの絵本の読み聞かせに夢中になったり・・・。特に読み聞かせは、子どもにとってとても楽しい時間のようです。「今日は何の絵本かな?」「もう一回、あの絵本がいいな」などワクワクしながら担任の読み聞かせを待ち、読み聞かせが始まると、お話に引き込まれるように絵本に見入っています。自分で絵本を見るのも大切ですが、読み聞かせはまた特別なものがあります。読んでくれる人の雰囲気や声に包まれ、絵の楽しさや色彩に目を奪われ、ストーリーに想像力を膨らませ、もしかしたらその絵本の主人公に自分を投影し、同じような体験をした気分になっているのかもしれない。読み終わった後は、その余韻にひたって、読み手と聞き手とが創り出すなんとも言えない空気感がそこに生まれます。ご家庭では、大好きなおうちの人に絵本を読んでもらうと、絵本の楽しさばかりでなく、おうちの人との肌の触れ合いや心の通い合いも感じられることでしょう。大きくなった時に、たとえ絵本の題名は忘れても、優しく読み語ってくれたその情景だけは心に残っているに違いありません。絵本が好きな子どもは、本を読むことも好きになり、イメージ力や読解力が身に付き、生きていくうえでの大きな力となっていくと思います。幼稚園でもたくさん絵本に触れたり、読み聞かせをしたりしていきたいと思います。ご家庭でもぜひ一緒に絵本を楽しんでみてください。

平田幼稚園では、絵本の読み聞かせの保護者ボランティアとして『めだかのおはなしやさん』がいらっしやいます。月に1回お帰りに各クラスで、2～3冊の絵本の読み聞かせをしていただきます。担任ばかりでなく、「〇ちゃんのお母さん」「△君のお父さん」などが来てくださると、子ども達は大喜びですよ。

平田図書館からも2か月に1回、各クラスに絵本の読み聞かせに来ていただきます。4月は年中・年長組で行ってもらいました。6月からは年少児クラスへもお願いする予定です。4月に読み聞かせてもらった絵本を紹介します。

【年中組】

『こいのぼりくんのさんぽ』 すとう あさえ/文、ほるぷ出版/刊

『バナナじけん』 高畠 那生/作、BL出版/刊

『まどのむこうのやさいはなあに?』 福音館書店/刊

【年長組】

『うしろにいるのだあれ～のはらのともだち～』 ふくだ としお/作、新風社/刊

『そらいろのたね』 なかがわとえこ/さく、おおむらゆりこ/え、福音館書店/刊

『はりねずみのぼうやのおはなし』 小風 さち/さく、西平あかね/え、福音館書店/刊

絵本の寄贈について

昨年度末に、平田ロータリークラブから絵本を2冊いただきました。^{はせがわせつこ}長谷川摂子作『めっきらもっきら どおんどん』という絵本です。長谷川摂子さんは、平田出身の絵本作家さんだそうです。この絵本はどの保育現場でもよく読み聞かせが行われていて、私も親しみのある絵本です。そのよく読んでいた絵本の作者が平田出身の方ということを初めて知り、より身近に感じました。幼稚園にも何冊かあるので、またお子さんが借りて帰られたら読んでみてくださいね。

小学校って楽しいね

17日(月)に年長児が今年度初めての園外保育に出かけました。年度当初に、平田小学校の校長先生・教頭先生から、「いつでも遊びにおいて」と声をかけてもらいました。まずは近くの公園で遊び、その帰りに平田小学校へ寄りました。まず玄関で教頭先生に大きな声で「おはようございます。平田幼稚園あお組です。遊ばせてください」と挨拶ができましたよ。

中庭のブランコや鉄棒などの遊具でしばらく遊び、とても楽しかったようです。帰りにも「またおいでね」と声をかけてもらい、嬉しそうでした。小学校を身近に感じて、1年後の就学を楽しみにできるといいなと思います。

